

# おすすめICT活用事例のご紹介

区分		学年	教科等	単元等	活用ソフト																								
小中		小3以上	国語	漢字「漢字おぼえ術名人戦」	学習支援システム、カメラ プレゼンテーションソフト																								
授業内容	間違えやすい漢字をどうやって覚えるか、アイデアを共有しよう				【提示資料】																								
	準備： ・子供たちを1チーム2名程度のチームに分け、提示資料に名前を入れておく。 ・学習支援システムで、成果物を提出する場所を準備する。 ＜提出場所の準備の例＞ Microsoft Teamsの場合：チャンネル内にフォルダを作成する。 Google Classroomの場合：授業時間内は、ストリームの投稿を生徒アカウントの投稿可に設定する。 ミライシード「オクリンクプラス」の場合：みんなのボードを第1戦～必要な数用意する。 Microsoft Teamsは、マイクロソフト グループの企業の商標です。 Google Workspace for EducationはGoogle LLCの商標であり、本資料はGoogleによって承認または提携したものではありません。				<table><tr><th colspan="3">漢字おぼえ術名人戦</th></tr><tr><th colspan="3">★第1戦★</th></tr><tr><th></th><th>おぼえたい漢字</th><th>メンバー</th></tr><tr><td>第1チーム</td><td></td><td></td></tr><tr><td>第2チーム</td><td></td><td></td></tr><tr><td>第3チーム</td><td></td><td></td></tr><tr><td>第4チーム</td><td></td><td></td></tr><tr><td>第5チーム</td><td></td><td></td></tr></table>	漢字おぼえ術名人戦			★第1戦★				おぼえたい漢字	メンバー	第1チーム			第2チーム			第3チーム			第4チーム			第5チーム		
	漢字おぼえ術名人戦																												
	★第1戦★																												
		おぼえたい漢字	メンバー																										
第1チーム																													
第2チーム																													
第3チーム																													
第4チーム																													
第5チーム																													
授業の流れ： 1. 5チームごとに対戦して「おぼえ術名人」を目指すことを確認する。各チームが「間違えやすい漢字」を選び、先生が提示資料に入力する。 2. 「おぼえ術」をチームごとに考える。（「こうしたら覚えやすい」、「ここを自分は間違えていたから、こうやって覚えた」など） 3. 動画もしくはスライドのどちらか、ツールを各チームで選び、「おぼえ術」を説明するコンテンツを作成し、提出する。 4. 先生が画面を投影し、第1戦の5チームのコンテンツを発表する。拍手や挙手でどのチームが「おぼえ術名人」かをクラス全体で確認する。先生が提示資料の「おぼえ術名人」のチームに王冠マークを置く。同様に第2戦以後も実施する。 5. 各自提出場所のコンテンツを見ながら、本時にとりあげられた漢字をノートに書く。				<p>【動画説明の例】「拳」</p> <p>毛が三本～ 横棒ヒゲヒゲ 手が拳がる♪</p> <p>【スライド説明の例】</p> <p>武士、カブト かぶり忘れたら はずかし～&gt;&lt;</p> <p>構 「木でつくる」から木へん 構造とか構内とか</p> <p>講話、講義は話すことに使うから こんべんですよ</p> <p>イラスト出典：いらすとや<a href="https://www.irasutoya.com/">https://www.irasutoya.com/</a></p>																									
ICT利活用のポイント		動画、スライドのいずれかから、自分にとって解説しやすいツールを選択することができます。																											
おすすめポイント		漢字を覚えるためのアイデアを主体的に考え、さらにクラスで共有することで新たな視点の発見につながります。「おぼえ術名人を目指そう」「先生になってね」という声掛けで、子供たちのモチベーションがアップします。																											